人と No.110

『野鳥の美しさに魅せられて』

井子区　柳沢　保広さん

鳥たちの一瞬の姿を見事に捉えた、躍動感あふれる野鳥の写真を撮影し、数々の写真コンテストで入賞している柳沢保広さん（井子・72歳）と写真との出会いは、ご自身が中学生だった頃にまで遡ります。

「奈良や京都のお寺のモノクロ写真を見て『きれいだなぁ、写真っていいなぁ』と思ったのが、今思えば写真に興味を持ったきっかけでした」（柳沢さん）。

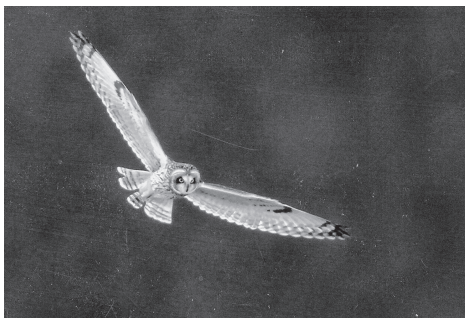
親戚から借りたカメラで始まった写真家人生は、成人し自分のカメラを持てるようになったことで加速します。山岳写真撮影の折に寄った安曇野のダム湖で、風景の中に佇む白鳥の美しさに惹かれ白鳥の写真に没頭。その後、白鳥だけでなく、身近な自然の中に暮らす様々な野鳥を撮影するようになり、それらの作品は外務大臣賞も受賞しました。

時には県外まで出かけることもあるものの、撮影地はもっぱら市内や県内。自宅周辺でも50種類近い野鳥の撮影に成功しています。姿や鳴き声を覚え、習性を学び、また庭に果物を置いたり実のなる木を植えて餌付けし、鳥との距離を縮めていく中で、シャッターチャンスが増していくのだといいます。「撮影する時はその鳥の習性を考えながら、『ここに停まってくれたらいいなぁ』とアングルを考えます。ブッポウソウを撮影した時は、ブラインドを張って半日待ったこともありました」（柳沢さん）。反対に、庭で雪をバックにメジロの写真を撮った時は、偶然雪がメジロの鼻先に乗り、なんとも言えない愛らしい姿が撮影できたというエピソードも。

30年近く写真に取り組んでいる柳沢さんですが、今後の目標は、鳥の本来の色をいかに忠実に写真に残すかということ。そして被写体として撮りたいと思っているのがフクロウの子ども。意外にも「薄日の方が鳥本来の色合いが撮れます。また、フクロウは、厳冬期は餌探しに日没前に親鳥が狩りにでるのでその時がシャッターチャンス」なのだそう。写真に対する情熱はまだまだ尽きることがありません。

編集委員　金子　美江

サンコウチョウ（2014年６月 撮影地：小諸市菱野）



コミミズク（2014年１月 撮影地：野辺山）

俳句

小諸俳句会

- 蕗の傘コロボックルがゐるやうな　木村　さとみ
- 青梅雨や信濃の川の長きこと　一柳　はるみ
- 座るにも立つにも力新樹光　井出　芳子
- 越の海夏の没日が羽根のばし　荒井　民子
- 後脚をそろへて空を青蛙　那須野　次則
- 垣越ゆる篠の子二本揺れてをり　大池　知恵

短歌

短歌新潮こもろ会

- 耳遠きわれは幾度も聞きかへす　息子は度毎に答へてくるる　成澤　綾子
- 寒耐へし命の血潮たぎるがに　くれなゐ深く椿咲きたり　室賀　彰子
- やわらかき木洩れ陽ゆれて薔薇の芽の　刺の微かな紅磨く　野村　節子
- 早苗そよぎ水面煌めく田を見つつ　葉桜の下にひと時憩う　日向　明子
- きいきいと小海線駅に止る音　猛暑のけだるき中に響けり　井出　久子
- とぼし消す窓に明るき光差し　寝待ちの月のいまし現る　森泉　克子